

農学委員会 土壌科学分科会（第21期・第2回）議事要旨

1. 日時：平成21年4月3日（火）13:00～15:00
2. 場所：日本学術会議2階特別室
3. 出席者：三枝正彦、石崎武志、後藤逸男、塩見正衛、西澤直子、松本聡、松本英明、
陽捷行、宮崎毅、三輪睿太郎、森敏、木村真人
欠席者：大杉 立、鈴木雅一、中西友子、三野 徹
4. 議題

（1）前回分科会の議事要旨の承認について

石崎武志氏の専門分野を「考古学」から「文化財保護学」に変更し、承認した。

（2）特任連携会員の自己紹介

石崎：文化財保護・修復が専門。温度、水分、湿度が劣化に大きく関係。北大で凍結を研究、多孔質中での水の凍結現象・氷の成長過程、石造物の凍結を研究中、水分特性曲線が有効。塩類の析出も同様の過程。

後藤：「全国土の会」会長。生産現場における土壌診断、農家への土壌学の普及。

松本：日本土壌協会会長、最近土壌汚染対策法の見直しを答申。

（3）土壌科学の基本概念について検討し、以下のような様々の意見が出された。

＜土壌に対する概念の広がり＞

*「土壌」と「土」の両方を含む。都市土壌も含める。

*ドイツでは、耕畜連携の農業現場に、都市住民が20%ほど居住。都市の住民を巻き込んだ土壌管理の視点が重要。

＜土と健康＞

*土肥学会の1部門である文化土壌学の視点。生態系と人間の健康を **Bicycle** とする。農医連携。 **Geomedicine. Agromedicine.** 土と健康のような分野を土肥学会の文化土壌学部門に加えてはどうか。

*有機農業研究会の雑誌「土と健康」にあるように、そのような概念は昔から存在。

*土の幅広い働きに注目し始めている。

＜提言と紹介・普及＞

*本分科会からの提言のためには、「何が欠落しているか」を明らかにする必要あり。土の解説書が見当たらず、一般の人にとっては土の分類方法がわからない。都市土壌とは汚染土壌、汚染物質のたまっている土壌と一般には考えられている。土の機能についての紹介が必要。

*「土の100不思議」のような本が必要。「土壌科学」は何に寄与するか議論が必要。

*一般への普及は、土と健康、土と環境、土と食糧に分けられる。

<土と土壌>

*土は材料。土壌は環境中に存在する土。健康・環境・食糧生産が 3 本柱。農家の間違った理解を改めさせる。市民の「化学肥料はよくない」とする固定概念を打破する必要あり。

*土壌の分類体系の早急な確立が必要。

(木村) 一般の人への土壌の分類紹介は、現時点でも十分可能。

*生産を目的とした分類体系の他に、環境や健康にとっての分類も必要。

(4) 各学協会間での土壌科学関連分野の交流促進方法について

各委員の分科会での分担、関連学協会を次回までに確定することとした。

(5) サイエンスカフェ、市民講座、シンポジウムなど土壌科学の一般社会への普及方法について検討し以下の意見が出された。

*関連学会で「土壌科学」の紹介をしてはどうか。

*東京農業大学の成人学校「市民農園」「ガーデニング」は好評。

*家の光協会の「やさい畑」はよく売れている。

<シンポジウムのテーマ>メタンハイドレート、文化財の劣化、地質の汚染機構、生ごみリサイクル、「間違いだらけの〇〇〇〇〇」

*本の出版を考えては？

*テーマを 2 本立てにするとよい。いずれかに興味のある市民が集まる。

*一般社会への普及方法は次回までにもう少し詰めて提案したい。

(6) その他

前回の宿題であった、土壌に関わる産業実態の資料 (ECOPRODUCT) の整理結果が木村から報告された。思いのほか、土壌自体を利用していない。(資料 2)

以上